

まどか 通信



社会福祉法人 まどか
〒720 - 0032 福山市三吉町南一丁目7番9号
☎ 084 - 928 - 1643 (Fax 兼用)
E-Mail : madoca1643@nifty.com
<http://madoca1643.style.coocan.jp/>
<http://www.facebook.com/madoca1643/>

令和 5 年 11 月 1 日

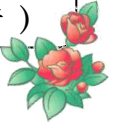
第 7 3 号

発行責任者：神谷 和孝

発行：社会福祉法人 まどか

編集責任者：高橋 恒二郎

(2月・5月・8月・11月 発行)



～ 84歳の誕生日を迎えるにあたって ～

理事長 神谷 和孝

皆さんが私の書いた巻頭言を読んでもくださる頃には、私は満84歳を迎えています。

84歳の誕生日(10月25日)が近づくにつれて、私の胸中で今まで生きた人生をふりかえり、新しい気持ちで84歳を迎えたいという気持ちがだんだんと強まってきました。

私は、昭和14年(1939年)、歌でも知られている大阪の真中にある法善寺の近くで出生しました。父親は私が生まれて一年もたたないうちに兵隊にとられてビルマ(現：ミャンマー)で戦死したので、私は父の顔を知りません。大阪への空襲が激しくなったので祖父母の福山に帰って来て、現在にいたっています。福山に帰って二ヶ月後、8月8日に福山の空襲にあい、大阪から持って帰ったものも殆ど焼失しました。そう言うことで財産もなく、働き手の父が居ないので、私が社会人になるまでは経済的には恵まれず、大学生になった翌日からアルバイトを始めました。大学生活は卒業するまで貧しくしんどかったけれど、将来は教師になりたい夢を持ち続けたので、まともな大学生活を送れたのだと思います。

どんなに苦勞したことも、しんどいことも、夢を持ってその時を頑張って乗り越えれば、年月を経て人生をふりかえってみれば、懐かしい思い出となっていることを、この文を書きながら強く感じています。

歴史上有名な人が「人間は誰でも自分の生きて来た道をふりかえった時、一冊の本が書ける」と言っているが、私もいつ生命がなくなるかわからないけれど、残された生命を頑張って、中身の濃い本を書きたいと思っています。

【地域活動支援センターとまり木】では、精神的な問題や生活困難に直面している方々に対して、相談や支援を行っています。しかし、このような方々の中には、福祉サービスの対象とならない「グレーゾーン」に属する方が多く存在します。グレーゾーンとは、医療機関で診断がつかないか、あるいは受診しないことで、適切な治療やケアを受けられない状態を指します。このグレーゾーンの問題は、社会的にも重要な課題となっております。ここでは、グレーゾーンの方々が抱えるさまざまな症状や困難について紹介し、その理解を広めたいと思います。



【引きこもり】とは、社会的な関わりを極端に避けて自宅に閉じこもる状態のことです。引きこもりの原因や症状は人それぞれ異なりますが、一般的には学校や職場でのいじめやストレス、自己肯定感の低さ、家庭内の問題などが挙げられます。引きこもりは精神的な苦痛や孤立感を伴うため、心身の健康に悪影響を及ぼします。また、引きこもりは社会的な責任や役割を果たせないという自責感や罪悪感を生み出すこともあります。

引きこもりは、精神疾患の一種ではありませんが、引きこもりの原因や結果として、精神疾患を発症する可能性があります。例えば、うつ病や社会不安障害などの気分障害や不安障害、自閉症スペクトラム障害や統合失調症などの発達障害や精神病性障害などが挙げられます。自分の問題に気づいていても、受診しないことが多いです。これは、恥ずかしいと感じたり、周囲に理解されないと思ったり、助けを求めることができなかつたりするからです。しかし、受診しないままでは、引きこもりの状態が長期化し、健康や生活に悪影響を及ぼす可能性が高くなります。

自分の状況を客観的に見つめ直し、必要ならば専門家の支援を受けることが大切です。精神疾患がある場合は、適切な治療を受けることで、症状の改善や回復が期待できます。

【グレーゾーン】とは、引きこもりとは言えないけれども、社会的な関わりが希薄で自宅にいる時間が長い人たちのことです。グレーゾーンには、仕事や学業をしているが人間関係に不安を感じている人や、インターネットやゲームに没頭して生活リズムが乱れている人などが含まれます。グレーゾーンの人たちは、引きこもりと比べて社会的な機能がある程度保たれていると言えますが、それでも心理的な不安や不満を抱えており、将来に対する希望や目標が見えない場合が多いです。

【発達障害のグレーゾーン】

とは、発達障害の診断基準には満たないが、発達障害の特徴を一部持っている人のことを指します。グレーゾーンに

ある人は、発達障害と同じように、コミュニケーションや学習、仕事などで困難を抱えている場合があります。しかし、グレーゾーンにある人は、発達障害の診断や支援を受けることが難しいという問題もあります。グレーゾーンにある人は、自分の状況を理解し、適切な対処法を見つけることが重要です。また、周囲の人も、グレーゾーンにある人の特性やニーズに配慮し、サポートすることが必要です。



【HSP】とは、高感受性の人のことを指す言葉です。HSP は、Highly Sensitive Person の略で、アメリカの心理学者エレン・アーロン博士が提唱した概念です。HSP は、周囲の刺激に対して敏感に反応し、深く感じる傾向があります。HSP は、約5人に

1人の割合で存在すると言われています。HSP は、繊細で思いやりがあり、芸術的な才能や洞察力を持っていることが多いです。しかし、HSP は、ネガティブな感情やストレスにも強く影響されやすく、自己肯定感が低かったり、過敏になったりすることもあります。HSP は、自分の特性を理解し、自分に合った環境や生活スタイルを見つけることで、より幸せに生きることができます。

グレーゾーンの人たちにとって、社会復帰や自立を目指すことは容易ではありません。しかし、それは不可能ではありません。引きこもりやグレーゾーンの人たちが必要とするのは、自分の状況を受け入れてくれる理解者や支援者です。また、自分の興味や能力を見つけて活かす機会や場所です。そして、自分のペースで少しずつ社会とつながっていく方法です。引きこもりやグレーゾーンから抜け出すためには、一步一步前進することが大切です

【地域活動支援センターとまり木】では、このような、受診していないグレーゾーンの方々に対しても、様々なサービスを提供しています。例えば、カウンセリングや就労支援、生活相談などがあります。これらのサービスは、自分の力で社会に参加できるように、個別にニーズに応じて行われます。地域活動支援センターのサービスは、無料で利用可能です。



段々と朝晩の冷え込みを感じてきました。気がつけば今年も残り2か月。最近、すみれ工房から就職して1年を過ぎた方から様子を聞くことがあり、体調や仕事の変化など色々な出来事に悩みながらも続けてこられており、職場の方をはじめ多くの人に支えられている話を聞くと、私たちも勇気づけられる思いです。

これからもハローワーク様をはじめ、色々な企業や支援機関の方々とも協力しながら皆さんの「働きたい」、「働き続けたい」をサポートしていきます！



★作業紹介★



すみれ工房では、企業での就労や自分のペースに合わせた働き方をサポートする一環として、様々な作業訓練があります。前号に続いて屋外での清掃作業の様子です。

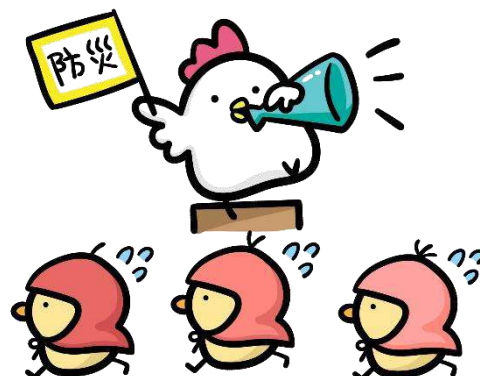
縁があり数年前から、ある企業様の敷地内の清掃の依頼をいただき、年に数回だけですが取り組んでいます。広大な敷地の中、季節によっては生い茂る雑草を取り除いたり、堆積している落ち葉を集めたり、とても大変ですが参加されている利用者さんには人気もあり、とてもやりがいのあるお仕事です。

今年は10月に3日間かけて取り組ませていただきました。作業の前後では見違えるほどきれいになっています。



避難訓練を実施しました！

10月7日、総合避難訓練と水災害を想定した避難訓練を行いました。利用者15名が参加されました。ハザードマップの見方や事業所の近くの避難場所を確認し、日頃の備えや意識の大切さを再確認されていました。



「虐待防止と身体拘束の適正化について」

8月26日、法人が運営する各事業所の職員が参加し、虐待防止に関する法人内研修会を行いました。

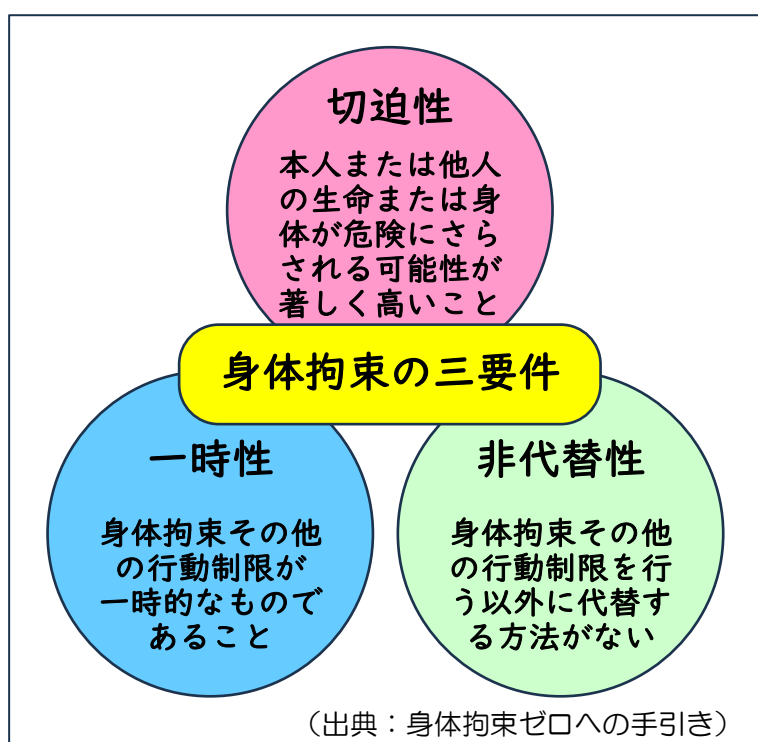
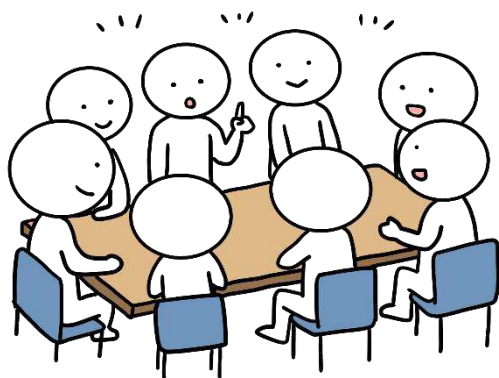
当法人では虐待防止委員会が身体拘束適正化委員会も兼ねており、法人内における身体拘束の適正化や虐待防止のための取り組みなどを各事業所から選出された委員で協議しています。

今年度は、6月に開催した委員会で、身体拘束についての理解を深めるための内部研修を行うことが決まりました。外部から講師をお招きするには日程が合わず、様々な支援団体や行政から公開されている資料を参考に自分たちで研修会を行うことになりました。

今はインターネットの動画サイトなどでも各事業所が自主的に学習できるよう解説した動画を公開されている弁護士の方もあり、そういった様々な資料のうちの一つを今回は使用させていただきました。

また、昨年度の法人内研修会では聴講形式のため、活発な意見交換まではできていなかった反省を踏まえ、外部研修ではお馴染みのグループワークも取り入れて実施しました。

研修動画を視聴する合間で、「虐待ってなんだろう」、「なぜ虐待してはいないんだろう」とグループワークを行い、「これも虐待になるんじゃないか」、「こういう場合はどうだろう？」と普段の活動での様々な場面を想定したり、「悪いことと教わったけど、改めてなぜ？って聞かれると困る。」など、様々な意見が出される中で職員一人ひとりが改めて虐待や身体拘束の適正化について考え、改めて学ぶことができました。



福山市への要望について

バラ会 副会長 田和桂子

秋冷の候、暑かった夏が嘘のように過ごしやすい日々が続いておりますが、この通信が皆様の手が届くころにはもう寒さが感じられる頃かもしれません。年々、秋が短くなっているように思われますが、この短い秋を愛おしみながら一日一日を大切に過ごしたいものです。

さて、バラ会のこの間の動きについてお知らせしたいと思います。前回の通信で、滝川事件の問題について寄稿させていただきましたが、9月の学習会では「精神科病院への長期入院について考える」をテーマに、望まぬ長期入院から患者を救出する取り組みをしている相川弁護士と医療関係者とのシンポジウムの動画を視聴しました。

ここで明らかになったことは、治療のための入院ではなく、退院した時の受け入れ態勢が無いために当事者が社会的入院を余儀なくされていることの問題です。それが滝川病院事件のような虐待をもたらす要因ともなっています。この動画では、なぜ現代日本においてこのような社会的入院が今なお続いているのかについて分析されていました。

この背景には、今なお根強く残る社会的差別・偏見は言うまでもありませんが、退院した人が安心して暮らせるための支援が充足していないということがあります。退院した当事者を家族が受け入れることができればいいですが、様々な事情でそれができないことも少なからずあります。障害者支援は家族が担わないといけないという社会観念がある限り、当事者は名ばかりの地域移行支援の下で退院は実現しません。また、もう一つの重要な要因として精神科医療の医療報酬の問題点があります。精神科病院の経営は主に投薬の処方と入院費用とで賄われているという実態があります。入院患者を減少させることは病院経営にも関わってくるのです。

このような状況の中で多くの精神疾患患者は長期入院を余儀なくされてきました。この背景には、精神障害者に対する行政的福祉支援は他の障害者支援に比べて様々な点で立ち遅れているということがあります。このような実態を踏まえて、今年度バラ会は福山市に対して要望書を提出ことにしました。以下、紙面の都合上要望項目に絞ってその骨子をお知らせしたいと思います。

要望項目1（医療に関する要望）

1. 精神科医療だけでなくその他の科においても医療費の助成対象を手帳2級所持者まで拡大してほしい。
2. 入院費用についても助成対象にしてほしい。
3. 精神科医師の往診を希望する。
4. 医療と福祉の直結

要望項目 2（精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに関する要望）

1. 退院後、安心して地域で自立した生活できるよう地域移行支援・地域定着支援等の充実に促進してほしい。
2. 親亡き後、当事者が一人でも孤立することなく、安心して生活できるよう継続的に相談支援を提供してくれる地域包括ケアシステムを実働させてほしい。

要望項目 3（就労に関する要望）

1. 一般企業に対して精神障害者の雇用を促進するよう、精神障害に対する理解を深め雇用を促進するような具体的措置を実施してほしい。
2. ジョブコーチ制度の充実

要望項目 4（当事者・家族支援に対する要望）

1. 精神保健福祉センター専門職員・保健師によるアウトリーチの実施
2. 障害者支援の脱家族化に向けての実態調査
3. 精神障害者家族会への支援

要望項目 5（学校現場に対する要望）

1. 学校現場に養護教諭だけでなく精神医療の専門的知識をもってメンタルケアができる人を配置してほしい。
2. 一般教員を対象とした、精神疾患や発達障害、及び福祉サービスについての研修の機会を義務付けてほしい。

以上要望項目は5点に絞って、それぞれ要望理由を書き加えています。特にこの度は、この中でも要望項目1（医療に関する要望）と2（精神障害者に対応した地域包括ケアシステムに関する要望）について強く言及していきたいと思っています。

三障害の内、精神障害者だけ精神科通院のみ1割で、入院の場合や他科への受診は3割負担となっています。精神疾患患者は薬の多飲のために副作用もあり内科受診することも少なからずあります。他の障害者と同じくすべての医療機関で1割負担を要望しています。

また、多くの精神疾患患者は病院にたどり着くまでが難しく、中には何十年も家に引きこもり、明らかに精神疾患の症状が見受けられながら受診しないために障害年金ももらえていない人もいます。精神科医師が往診して診断してくれば様々な支援に結び付けられることができるのです。

前述の長期入院を少しでも解消するためにも、現在の医療機関の抱える問題点を明らかにし、精神疾患患者が適切に医療に結び付き、安心して生活していくために必要不可欠な支援を実現するために、家族会として声を上げていきたいと思っています。このような要求行動を前進させるためには少しでも多くの声が必要です。バラ会の活動に共鳴していただけの方がいらっしゃいましたら、バラ会と共に歩みを進めていただければと思います。

どうか今後ともバラ会活動にご協力ご支援を賜りますようお願いいたします。

～「善意」のお知らせ～

今期も「法人まどか」および「すみれ工房・とまり木」、そして「福山市精神保健福祉家族会（バラ会）」に多くの皆様よりご厚志・物品提供および作業支援をいただき、誠にありがとうございました。（順不同・敬称略）

★ 法人まどかへの善意

・岡田美枝・高橋恵子

★ 法人まどかへのボランティア

・岡田美枝・國貞将志・村田紀美子・精神保健福祉ボランティアグループ「そよかぜ」

★ 福山市精神保健福祉家族会（バラ会）への善意

※ 匿名でのご寄附も頂いております。ご厚情につきましては記録に万全を期しておりますが、脱漏がございましたら失礼の段、ご容赦いただきますようお願いいたします。

仕事を探しています

こんな仕事は頼める？
どこまでやってもらえるの？
まずは、ご連絡ください！

見学・体験利用

どんな場所か見てみたい…
どんな事をしているの？
気軽にお問い合わせください！

ボランティア

何かできないかな？
一緒に手伝いたい…
ご連絡をお待ちしています♪

今後の予定（令和5年11月以降、令和6年1月まで）

12月	クリスマス会（予定）
12月28日	年内仕事納め（納会）
1月4日	仕事始め
その他、事業所毎に感染症対策をしつつ実施していきます。	

編集後記

秋から初冬にかけて、寒さが厳しくなってきましたね。光熱費も高騰して、暖房をつけるのにためらってしまうこともあるかもしれません。でも、体調を崩さないように、温かくして過ごしてください。『まどか』は、これからも生き辛さを抱えた人々に対して、自分自身の価値を認めて、必要に応じて社会とつながるための声を発信する手助けを行っていきます。「まどか通信」は、その一つの手段です。通信を通して、私たちの思いや経験を共有し、支え合い、学び合いましょう。次号もお楽しみに。（とまり木 施設長 長谷川）

QRコードが
新しくなりました♪

Facebook



HomePage

